国立病院機構弘前病院広報誌

まほろば

第112号
2010年11月
発行

Hirosaki National Hospital

病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

看護への誓い式

私たち58回生は、10月21日に無事看護への誓い式を迎えることができました。

今回の誓い式では、今までになかった試みとしてクラス全員で合唱曲「Believe」に挑戦しました。はじめはたくさんの候補がありましたが、みんなで話し合いを行い、歌詞の意味を考えながら、最終的にこの曲に決まりました。歌詞の中で「たとえば君が傷ついて、くじけそうになったときは、必ず僕がそばにいて支えてあげるよ、その肩を」という一節があります。これは、これから私たちが実習などでくじけそうになったときも友達や先生、家族など、いつも私たちのまわりには支えてくれる人がいるということを想起させてくれると思いました。また合唱曲以外にも、誓いの言葉やしおりもみんなで決めてみて、入学当初に比べると、団結力が深まったと感じました。誓い式当日はほどよい緊張感の中で、合唱やナイチンゲール誓詞など、練習以上の成果を出すことができました。

今回の誓い式を通して、改めて自分の目指す看護師像を確認でき、目標に向かって具体的に何をすればよいのか考えることができました。また、困難をみんなで乗り越えていける団結力をさらに深めることができたと思います。

誓い式で感じた緊張感や自分の思いも忘れることなく、これからの講義や演習、冬から始まる実習に向かいより一層頑張っていきます。これから見えない未来に悩んだり、葛藤することがあると思いますが、周りの人たちとお互いに支えあいながら、一歩一歩進んでいきたいと思います。これからも温かい目で見守っていただけるように努力していきます。

58回生　花田千穂、畑中真実、西岡丸佳

看護への誓い式は、学生各々が講義や演習、そして看護学実習へ向けて学びを深めていくこと、そして学生一人一人がナイチンゲールから灯の継承を受け、看護への意欲を高める、という目的で行われました。

学生達は式典の目的を共通理解するため、話し合いを重ねてきました。また、式典の準備に際し、各々が役割をこなし、また、他の学生の役割を理解し、協力していました。私は一緒に準備を行う中で、クラスの団結が徐々に深まっていることが感じられました。そして、「チームワークを大切にする」というクラス目標に近づくことができたことを嬉しく思います。これから看護師になるという目標に向けて学んでいく過程で、嬉しい経験ばかりではなく、苦しいこと・悲しいことを経験するかもしれません。看護はチームワークが大切になり、そのことが患者様やその家族を支え、安全・安楽な援助を行うことにつながります。今回、目標の達成に向けて取り組んだ経験を、１年次の２月から始まる基礎看護学実習でも生かし、看護師になるという共通目標に向けてさらにクラスの団結を深めてほしいと考えます。また、各々が考えた「看護への誓いの言葉」を大切に、これからの多くの学びや経験の中で言葉を具体化し、各々の看護観を深めてほしいと思います。

１学年副担任　磯邉　優子

乳癌について　～9月市民講座～

最近マスコミに取り上げられることの多い乳癌について、疫学から治療までを簡単に解説しました。乳癌は近年増加傾向にあり、現在日本人女性の癌罹患率の一位となっています。発癌の危険因子として、酒好きで油っこいものばかり食べ、運動が嫌いで太っている、初経が早い、出産経験や授乳経験がない、家族に乳癌患者がいるなどが挙げられています。

その治療については手術が基本ですが、今は乳房切除ではなく乳房温存手術が多数を占めています。

そこで乳房温存手術について述べますと、最大の利点は乳房喪失感の軽減です。これは女性にとって極めて重要なことでしょう。欠点は残存乳房への局所再発です。これを減らすために術後に放射線療法と化学療法（抗癌剤）が行われますが、それでも約30％に局所再発を認めます。放射線療法については行える施設が限られている、治療に約５週間かかることから、患者の置かれている立場や環境によって受けられない場合も出てきます。これらのことをよく考えて治療法を選択してください。乳癌発見の理由の90％は自分でしこりに気づいたです。つまり乳癌は自分で見つけることが出来るのです。月に一度の自己検診で乳癌を早期に見つけましょう。

外科医師　高橋　克郎

小児の発達外来について

今年６月から週一回火曜日、小児科外来で、主に検査を通して子どもたちと接しています。これまでは学校などの教育関係機関で様々な困りごとを抱えた子どもたちや保護者、先生方と関わってきました。外来では、未就学児や小学校低学年の児童と関わることが多く、これまで以上に子どもの心身の成長・発達に目を向けさせられるとともに、悪戦苦闘しながら子育てをなさっている親御さん、ご家族の大変さをひしひしと感じています。

検査では、その子の発達の状況や得意・不得意な面を明らかにし、日頃の困りごとや気がかりなことに対して、解決のヒントやかかわり方のコツを見つけられるよう心がけています。また、子どもたちが遊び感覚で検査に取り組めるように努めています。

お子さんのことで気がかりなことなどありましたら、気軽にいらしてください。

(受付方法) 電話で小児科外来受付をし、小児科医師の診察を受けて検査になります。

臨床心理士　菊池　春香

「NST 内部実地研修～ Part 1」

10月19日（火）、各病棟の看護師を対象に、NST（栄養サポートチーム）内部研修を行いました。

この研修目的は、NST専任看護師を養成することです!!

当日は、佐藤副看護師長による『オリエンテーション』から始まりました。栄養管理室からは、『スクリーニング』『経腸栄養剤』の講義を行い、経腸栄養剤の試飲会を催しました。さらに、一戸薬剤師による『静脈栄養』では、演習問題で悲鳴をあげ、山田言語聴覚士による『口腔ケア』では、プロジェクターの電源を切ってしまうというハプニングもあり、盛りだくさんの一日でした。

ここで、受講生の声を紹介したいと思います。

★ NST のことが良くわかりました。
★もっと早くに聴講したかった。
★ NST 依頼を行う患者さんの抽出に悩みます…　など

栄養管理室　沢谷　里江

【 シリーズ医療安全のとりくみ ④ 】 理学療法室における医療安全の取り組み

一般的なリハビリテーション領域におけるアクシデント発生には、一定の傾向があるとされています。よく耳にする項目として歩行練習等の際の転倒・転落、関節可動域運動時の骨折、物理療法中の熱傷・火傷が挙げられます。

当院の理学療法室では理学療法士４名、マッサージ師１名の計５名によって、昨年度では入院外来合わせて指導等も含めると年間約22,000件、月平均にすると約1,800件のリハビリテーション治療が行われました。その１年間のヒヤリハット報告を振り返ってみると、歩行練習中の転倒が全体の約８割を占めている現状です。転倒、転落のよく言われる原因として運動能力の低下と注意・判断力の低下があります。患者様の年齢層も高齢化傾向にあり、様々な合併症を有する方も少なくはありません。特に前者の運動能力に関して理学療法室では、個々の病態の把握・情報収集・禁忌事項に注意しながら歩行練習等を進めるようにしています。各患者様の能力・危険を医師・看護師と共有し、スタッフ間でも協力し合い転倒に配慮しています。

また歩行場面、物理療法機器点検という環境面にも常日頃から確認をするよう努めています。

件数からみると、少ないスタッフ数ではありますが、その中でいかに患者様に安全な歩行練習、運動を効果的に安全に行っていくかを日々追求しています。

理学療法室リスクマネージャー　山田　克彦

外来診療一覧

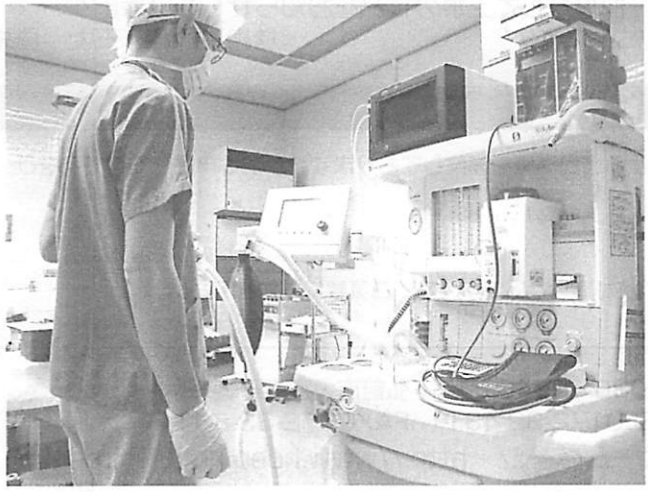
◆外来医師診療一覧表（2010年11月1日現在）

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		人見博康	人見博康	人見博康	人見博康	人見博康
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
		下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
消化器・血液内科		太田健	週毎に交替で担当 ①吉谷／松木 ②松木／太田 ③太田／吉谷	太田健	太田健	－
		吉谷元		松木明彦	吉谷元	松木明彦
		佐藤年信	－	佐藤年信	－	佐藤年信
小児科		三上珠希	野村由美子	杉本和彦	野村由美子	野村由美子
		杉本和彦	佐藤工	三上珠希	佐藤工	杉本和彦
		－	－	佐藤次生	佐藤次生	－
外科		田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹	横山昌樹	三上勝也
		三上勝也	三上勝也	田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛	柿崎寛	秋元博之	秋元博之 大鹿周佐 又は	柿崎寛
		大鹿周佐	佐々木規博	大鹿周佐	能見修也	秋元博之
		田中直				
	午後	－	－	－	－	柿崎寛
脳神経外科		－	－	木村正英	－	－
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術／検査	● 予約	● 手術／検査	● 予約
泌尿器科	午後	工藤誠治	弘前大学医師	小林大樹	佐藤元昭	－
産婦人科		真鍋麻美	片桐清一	真鍋麻美	● 妊婦検診 （一般外来休診）	片桐清一
		柞木田礼子	小笠原智香	小笠原智香		柞木田礼子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子	黒田令子	● 手術 （一般外来休診）	黒田令子	黒田令子
		二井一則	二井一則		二井一則	二井一則
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	－	－	川口英夫 （午後）	－	－
女性専用外科		杉本菜穂子（※予約制／第1・第3火曜日午後診療）				
セカンドオピニオン		－	－	－	今充	－

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

【シリーズ医療安全のとりくみ⑤】臨床工学技士による医療安全の取り組み

私は医療機器の保守管理を担当しておりますので、仕事柄、医療安全と直接かかわっております。特に、人工呼吸器や麻酔器などの装置のトラブルは、患者様の生命に直接影響します。日常の点検においてチェックリストに従うだけでなく、停電やガスの供給が停止した場合にどのような対応を行えばよいかなどを考え、少しでも気になることがあればすぐにメーカーと連絡を取り、徹底的にその装置を把握できるように努めております。また、医療安全管理係長の協力のもと、病院スタッフ、特に看護師さんを対象に、シリンジポンプ・輸液ポンプ、AEDなど機器の操作説明も担当しております。通常の操作方法だけでなく、誤った取り扱いをした場合の危険性について説明することで、より一層安全な操作の習得に繋がっております。また、医療機器に関する医療事故のニュースを、事故の起きた背景を想像しながら見ることで、さまざまな危険を予測できるようにトレーニングしております。



以上、臨床工学技士としての医療安全の取り組みを紹介しました。

リスクマネージャー
麻酔科臨床工学技士　谷川原　勝史

たか丸くんもお祝い！弘前城築城400年祭100日前イベント 開催！

去る９月23日（木・祝）、弘前公園前追手門広場において、「弘前城築城400年祭100日前イベント」が開催されました。

弘前城は、津軽藩２代目藩主津軽信枚（のぶひら）の手により慶長16年（1611年）に完成し、現在も三重の壕や、東日本で唯一の江戸時代からの現存天守閣を見ることができます。来年平成23年（2011年）、この弘前城は築城400年を迎えます。それを記念して、築城からの歩みを振り返り、また未来への新たな出発点として、市を挙げて築城400年を祝う「弘前城築城400年祭」が行われます。９月23日は、400年祭がスタートする平成23年１月１日まであと100日の節目の日。弘前についての問題で「たか丸くん」と○×クイズ、ミニ新幹線の運行、黒石つゆ焼きそば等のご当地グルメの出店、市内園児によるマーチングバンド演奏等様々なイベントが行われました。

さてここで、度々登場している「たか丸くん」についてちょっとご紹介。弘前城築城400年祭のマスコットキャラクターである「たか丸くん」は、平成21年11月27日（400年祭400日前イベントの日）がお誕生日の男の子。ちょっと調子に乗りやすい性格で、羽で刀を握りしめ、弘前市民の安全を守ってくれています。弘前城は別名鷹岡城。そこからイメージされた鷹

の姿に、400年祭の気運が「たかまる」ようにと、付いた名前が「たか丸くん」。「たか丸くん」の誕生からの奮闘ぶりは、「たか丸くんのおでかけ日記」（弘前城築城400年祭ＨＰ内）をぜひご覧下さい。“一緒に400年祭を盛り上げたい！”そんな気持ちにさせてくれます。

入院係　工藤　真淑

新病棟建替え工事状況のお知らせ（第１回）

新病棟建替え工事の安全祈願祭が平成22年７月29日に行われて以降から10月末までの工事状況をお知らせします。

８月は、現場事務所の組立、工事敷地内の仮囲い、基礎工事のための既存建物際の土留めなどの準備作業を行いました。

９月は、杭工事着手前に地盤を約２m程度掘り下げる掘削工事を上旬から中旬にかけて行い、その後15日から杭工事に着手しました。（杭工事は、10月中旬完了を目途で作業計画を立てました。）杭は、太さが70㎝の鋼管付コンクリート杭と高強度プレストレストコンクリート杭を繋ぎ合わせたものを使用し、長さが31mにもなります。この工事では、掘削機械を２台投入し１日５～６か所施工する計画で実施しました。

杭工事は、地中深く（約33m）ドリルで穴を掘り進める作業が最も重要かつ技術が必要な作業となります。この工事では、途中で土が崩れたり、大きな石が障害になったりと様々な障害に対応しなければならない状況が多々ありましたが、なんとか10月28日に完了しました。

現在は、基礎工事の作業を始めたところです。

来年６月末の新病棟完成までの間、毎月この紙面をお借りして工事の状況をお知らせしていきます。

営繕専門職　三上　勝栄

お　知　らせ

※毎月、第４水曜日地域医療研修センターにおいて、当院職員による市民講座を開催しております。参加は自由ですので、ぜひ参加下さい。
次回は、11月24日（水）午後５時40分からの予定です。

◆ **患者相談窓口**

『患者相談室』のMSW（メディカルソーシャルワーカー）が対応していますので、ご気軽にお尋ね下さい。

発行元　独立行政法人国立病院機構弘前病院
Hirosaki National Hospital
責任者　臨床研究部長　泉井　亮
〒036－8545　弘前市大字富野町１番地
TEL0172-32-4311　FAX0172-33-8614
ホームページ　http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/